

Annual Report

2023

京都大学医学部附属病院
看護職キャリアパス支援センター
地域連携力向上キャリアパス支援部会報告書



目次

1	はじめに	1
2	概要	
1)	センターの目的	2
2)	京大病院看護部理念	2
3)	構成	3
4)	看護人材交流の仕組み	4
5)	看護人材交流申し込み方法	5
3	2015～2023年度 人材交流実績	6
4	2023年度の人材交流	12
5	活動報告	
1)	相互交流報告会	14
2)	出向支援の取り組み	18
3)	CNL（クリニカル・ナース・リーダー）育成への取り組み	19
6	編集後記	20

1. はじめに



看護職キャリアパス支援センター長
井川 順子

地域・施設の枠を超え 一人ひとりの力を伸ばす支援を通じて 地域医療への貢献を目指しています

京都大学医学部附属病院が京都府の支援を得て、2015年7月に「看護職キャリアパス支援センター」を開設してから交流・出向を継続しております。当センターの目標は、人材交流プログラムを通じて施設間の連携に強い助産師・看護師を育成し、それによって京都府下の地域医療への貢献をめざすというものです。

我が国は少子高齢化や地方の過疎化など、さまざまな課題を抱えており、求められる医療も変化しています。国は2025年、2040年を展望し、病床の機能分化・連携、在宅医療・介護の推進、医療・介護従事者の確保・勤務環境の改善等、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」が急務の課題としています。

当院は社会のニーズに応えるため、大学病院だからこそ可能な高度急性期医療に加え、地域の医療・介護施設、在宅医療との連携強化に取り組んでいます。また病院の機能分化（高度急性期、急性期、回復期リハビリテーション、慢性期など）が進み、看護職も各領域における専門性がより一層求められるようになっていきます。しかし現状は、高度急性期を担当する看護師は在宅の現状が分からず、逆に在宅からスタートする看護師は急性期のことが分からないというケースも少なくありません。こうした看護師個々のギャップを埋め、継続医療・継続看護を推進するための取り組みとして「施設間の連携に強い看護師養成プログラム」をスタートさせました。

機能の異なる病院間の人材交流によって、それぞれの現場を知り、学びあい、看護をめぐる、医療全体をめぐる、私たちの暮らしをとりまく地域や社会全体を俯瞰する看護の視点を涵養するとともに、お互いの機能の強みを活かし合うことで質の高い看護、チーム医療が提供できるのではないかと考えています。こうした府下全域での看護師・助産師の人材交流のベースとなっているのは、当院の充実した人的・物的リソースと、これまでに築いてきたノウハウ・実績です。こうした強みを活かして、地域・施設横断的な支援に注力し、「橋渡し役」として機能して参ります。

自分を高め、これからの看護を牽引する志をもった方の参加を期待しています。当センターは学び続けるジェネラルナースを支援し、この取り組みによる人材交流が、そこに関わる多くの看護師間・施設間における新しい相互学習の場として発展していくことを願っています。

京都大学医学部附属病院 病院長補佐
看護部 看護部長
看護職キャリアパス支援センター長
井川 順子

2. 概要

1) センターの目的

センターは、京都大学医学部附属病院と京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻並びに地域医療機関等との間で相互の人材交流を推進することを目的とする。特に、地域医療機関等との相互人材交流の推進においては、医学部附属病院から他施設への看護師等の長期派遣、並びに他施設から医学部附属病院への長期受け入れを行う人材交流支援システムを確立することにより、看護師等の人材交流を活性化させ、医療機能分化における施設間連携に強い看護師等を要請することを目的とする。

2015年6月4日制定

京都大学医学部附属病院

看護職キャリアパス支援センター内規より

プロフェッショナルとしての看護の責任

- “まもり” – 患者/家族の擁護者であること
- “とどけ” – 直接ケアの提供者であること
- “つなぐ” – 医療チームの調整者であること

看護職キャリアパス支援センターでは、どんなときにも看護に自信を持って責任を果たす腰の強いジェネラリストの育成を目指しています。

2) 京大病院看護部理念

基本方針は、京都大学医学部附属病院看護部の理念に基づいています。

看護部の理念

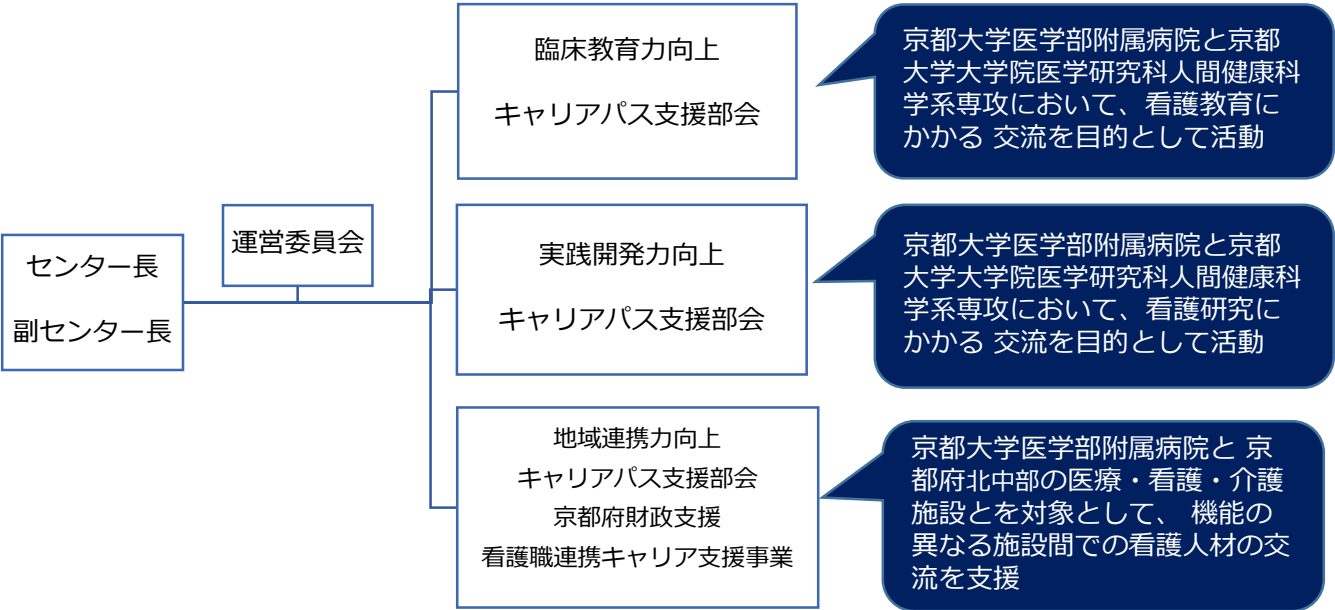
看護師には、健康を増進し、疾病を予防し、健康を回復し、苦痛の緩和につとめる4つの基本的責任がある。

京都大学医学部附属病院看護部ではこの基本的責任を果たすために、人々を全人的にとらえ、その専門性をもって主体的に働きかける。またその看護の実践に当たっては、京都大学医学部附属病院の患者の権利宣言と理念に基づき、看護の提供を行う。

- 私たちは、常に患者の立場に立ち、その信条、人格、生活、権利を尊重します。
- 私たちは、患者に必要な情報の入手を助け、患者の意志決定を支援します。
- 私たちは、可能な限り高い水準の看護を提供するために、個人としてまた、組織として継続学習を推進します。
- 私たちは、看護実践の水準を高める研究活動を推進し、卓越した診療・教育・研究を行う本院の使命の達成のために協働して取り組みます。
- 私たちは、チーム医療の一員として、他部門と信頼関係に基づいた協働を図り、病院運営に積極的に参画します。
- 私たちは、看護活動を通して国民の福祉に貢献します。
- 私たちは、社会的地位の向上のために、積極的に専門職としての活動を行います。

3) 構成

看護職キャリアパス支援センター 組織図



看護職キャリアパス支援センター 組織名簿

センター長 看護部長 井 川 順 子					
副センター長 教授 任 和子					
運営委員会					
看護部長	井川 順子	教 授	任 和子		
准教授	榊 由里	講 師	大滝 千文		
助 教	近田 藍	助 教	平 和也		
助 教	黒田 貴子				
副看護部長	河合優美子	副看護部長	松野 友美		
看護師長	深川 良美	看護師長	平岡 節子		
看護師長	藤澤 誠	特定職員	山田 美恵子		
陪 席	植村 博樹（総務課長）				
陪 席	芦田 雅弘（研修センター 課長補佐兼掛長）				
臨床教育力向上 キャリアパス支援部会		実践開発力向上 キャリアパス支援部会		地域連携力向上 キャリアパス支援部会	
				京都府財政支援 看護職連携キャリア支援事業	
教 授	任 和子	教 授	榊 由里	教 授	任 和子
助 教	近田 藍	助 教	平 和也	講 師	大滝 千文
副看護部長	松野 友美	助 教	黒田 貴子	看護部長	井川 順子
看護師長	深川 良美	副看護部長	松野 友美	特定職員	山田美恵子
看護師長	平岡 節子	看護師長	藤澤 誠		

4) 看護人材交流の仕組み

支援事業の概要について

本事業では、急性期から回復期、在宅における幅広い看護の経験と知識を有した「施設間の連携」に強い人材育成を目標にさまざまな支援を行います。

特に「京都府看護職連携キャリア支援事業」の対象となる地域※1に対しては、京都大学医学部附属病院と他施設（主として在宅系）および京都府下における医師・看護師偏在地域の医療機関への長期研修・人材交流を行うことで、教育のニーズと人員確保のニーズをマッチングさせ、不足している地域の医療機関への長期研修・当該施設からの受け入れを行う相互人事交流、在宅・訪問看護施設、産科医・助産師のシステムを確立し、医療機能分化における施設間連携に強い看護師を育成し、京都府下における看護力の底上げを目指します。

※1 京都府北中部、南部等の医療・看護・介護施設

事業内容について主に、次の**3つの交流プログラム**について支援を行っています。

①京大病院と対象機関との相互交流プログラム

人材交流ニーズが合致する対象機関との間で看護師・助産師相互の交流・出向を行います。また、一般急性期病院と対象医療機関との人材交流についても支援を実施します。

＜相互交流実績＞

綾部市立病院・市立福知山市民病院・京丹後市立弥栄病院
舞鶴医療センター・国保京丹波町病院
あそかビハーラ病院（※2）訪問看護ステーション碧い音（※2）

②京大病院から他の医療機関等への交流プログラム

京都府北中部、南部等の看護師・助産師の確保が困難な施設へ、京大病院から一方交流・出向を行っています。

＜一方交流実績＞

公立南丹病院・綾部市立病院・京丹後市立弥栄病院・
市立福知山市民病院・あそかビハーラ病院（※2）
結ノ歩訪問看護ステーション（※2）・がくさい病院（※2）
訪問看護ステーション碧い音・日本バプテスト病院（※2）
渡辺緩和ケア・在宅クリニック（※2）京都田辺中央病院（※2）

③他の医療機関等から京大病院への交流プログラム

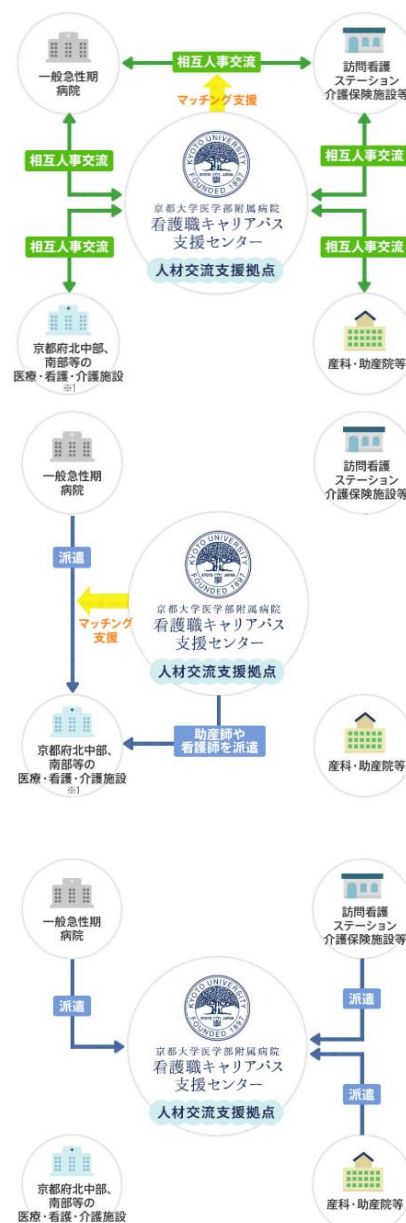
京大病院への交流（研修）を希望する施設から看護師・助産師の出向・受け入れを行います。

＜研修受け入れ実績＞

京都大学医学部附属病院研修センターにて実施

機能の異なる施設間での看護人材の交流を支援します。今後も連携施設を拡大し、交流プログラムを広めていき急性期・慢性期・在宅・周産期をつなぐ人材交流の支援拠点として機能していきます。

（※2）京都府基金対象外



5) 看護人材交流申し込み方法

お申し込みについて

「施設間の連携に強い看護師養成プログラム」は、それぞれの医療機関と京都大学医学部附属病院との間で実施する人材交流プログラムです。看護師、助産師が現在勤務する医療機関に籍を置きながらの相互出向、または、一方出向となるため、医療機関からのお申し込みが必須です。

相互派遣



応募期間：順次

交流期間：3ヶ月を1クールとし、

1人あたり最大8クール（2年）

応募方法：看護職キャリアパス支援センター担当窓口へ直接お電話またはメールにてご応募ください。

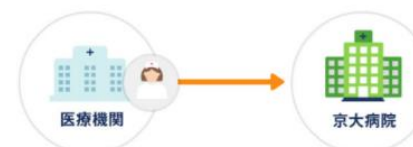
派遣（京大病院から）



応募人数：1医療機関につき、人数制限等はありません。

応募対象と基準（各医療機関から推薦される方）は、以下の条件に該当する方です。

派遣（京大病院へ）



- 1 京都府下の次に該当する医療機関に正職員として勤務している方
在宅診療・介護機能を持つ訪問看護ステーション、助産院（診療所）など
北中部、南部等医師偏在の医療機関
急性期機能を持つ京都市近辺の医療機関など
- 2 臨床経験4年以上、京都大学医学部附属病院看護師ラダーⅢレベル※に該当する方

※京都大学医学部附属病院ラダーⅢレベル基準とは、

「部署のリーダー看護師としてリーダーシップが発揮できる段階」としています。

お申し込みの流れ



※マッチング可否の通知については、毎月月末までにメールでお知らせします。

【お問い合わせ先】

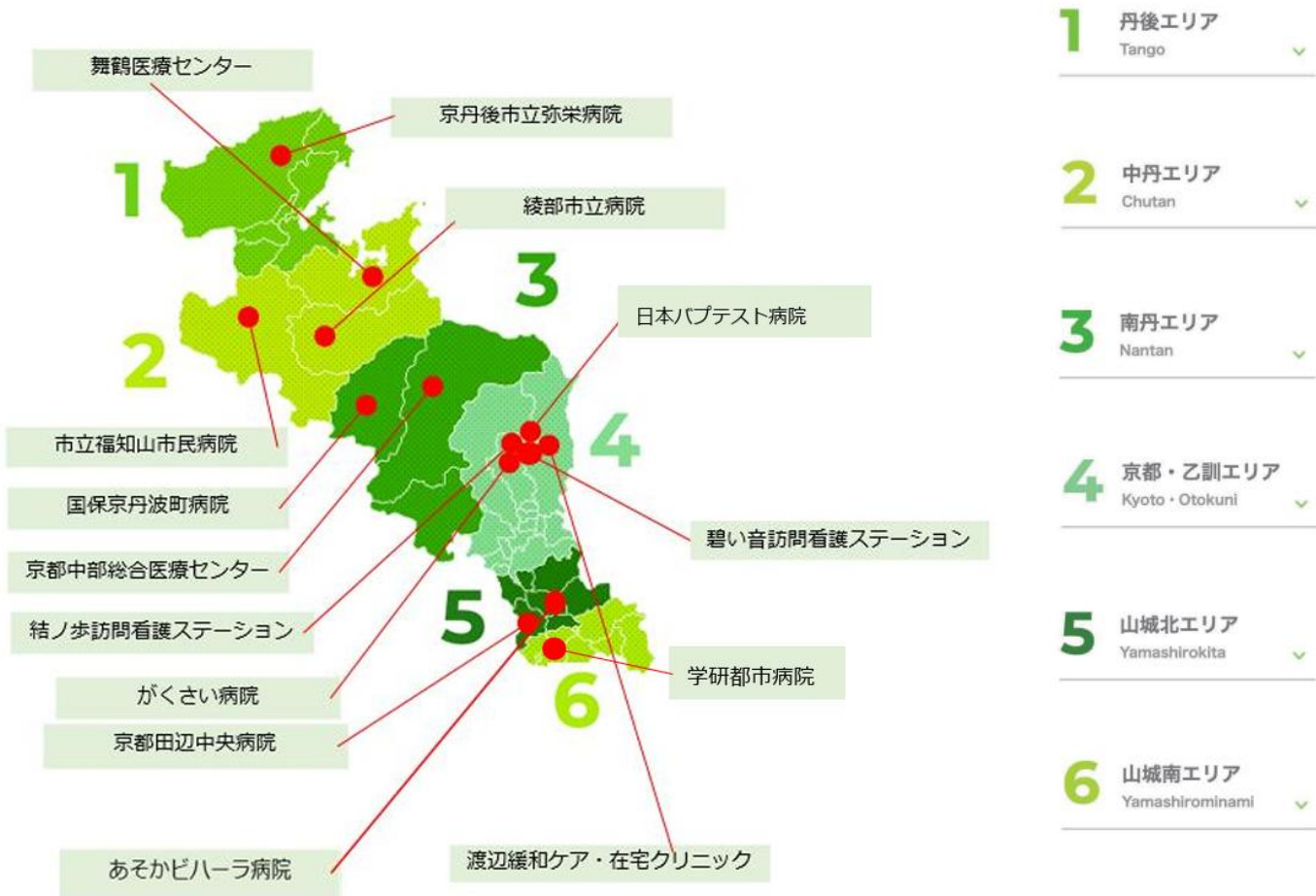
Email : nrcareer@kuhp.kyoto-u.ac.jp

Tel:075-751-3746(直通) 075-751-3745(FAX)

〒606-8507

京都市左京区聖護院川原町54

3. 2015～2023年度 人材交流実績



医療圏（エリア）	市町村	出向先
1 丹後医療圏	京丹後市 伊根町 与謝野町 宮津市	京丹後市立弥栄病院 訪問看護ステーション
2 中丹医療圏	福知山市 舞鶴市 綾部市	市立福知山市民病院 綾部市立病院 舞鶴医療センター
3 南丹医療圏	京丹波町 南丹市 亀岡市	京都中部総合医療センター 国保京丹波町病院
4 京都・乙訓医療圏	京都市 向日市 長岡京市 大山崎町	日本バプテスト病院 渡辺緩和ケア・在宅クリニック がくさい病院 結ノ歩訪問看護ステーション 訪問看護ステーション碧い音
5 山城北医療圏	宇治市 城陽市 八幡市 京田辺市 久御山町 宇治田原町 井手町	あそかビハール病院 京都田辺中央病院
6 山城南医療圏	木津川市 精華町 和束町 笠置町 南山城村	学研都市病院 ※2023年度 新規参加施設

交流実績一覧 看護人材交流支援事業出向職員一覧 2015年4月～2024年3月

施設名	在籍施設	出向先施設	出向期間	月数（ヶ月）
京都中部総合医療センター（旧公立南丹病院）				
1助産師	京都大学医学部附属病院	公立南丹病院	2015.4.1～2016.6.15	14.5
2助産師	京都大学医学部附属病院	公立南丹病院	2015.4.1～2016.7.29	16
綾部市立病院				
3看護師	京都大学医学部附属病院	綾部市立病院	2015.4.1～2017.3.31	24
4看護師	綾部市立病院	京都大学医学部附属病院	2016.4.1～2017.9.30	18
5助産師	京都大学医学部附属病院	綾部市立病院	2017.4.1～2019.3.31	24
6看護師	綾部市立病院	京都大学医学部附属病院	2017.10.1～2018.3.31	6
7看護師	綾部市立病院	京都大学医学部附属病院	2018.4.1～2018.9.30	6
8看護師（二施設目）	京都大学医学部附属病院	綾部市立病院	2019.4.1～2019.9.30	6
9看護師	綾部市立病院	京都大学医学部附属病院	2019.4.1～2019.9.30	6
10看護師	綾部市立病院	京都大学医学部附属病院	2019.11.1～2020.6.30	8
京丹後市立弥栄病院				
11助産師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2015.7.1～2016.6.30	12
12看護師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2016.1.16～2017.1.31	11.5
13助産師（二施設目）	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2016.6.16～2017.3.31	9.5
14看護師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2017.4.1～2017.9.30	6
15看護師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2017.4.1～2017.12.31	9
16助産師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2017.10.1～2018.3.31	6
17助産師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2017.10.1～2019.9.30	12
18看護師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2018.1.1～2018.7.5	6
19看護師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2018.4.1～2018.9.30	6
20看護師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2018.11.1～2019.3.31	5
21看護師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2019.10.1～2020.3.31	6
22看護師	京丹後市立弥栄病院	京都大学医学部附属病院	2020.4.1～2020.6.30	3
23助産師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2021.1.1～2022.3.31	15
24助産師	京都大学医学部附属病院	京丹後市立弥栄病院	2023.2.1～2024.1.31	12
市立福知山市民病院				
25看護師	京都大学医学部附属病院	市立福知山市民病院	2016.4.1～2018.3.31	24
26看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2017.4.1～2017.6.30	3
27看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2017.6.1～2018.9.30	16
28助産師	京都大学医学部附属病院	市立福知山市民病院	2018.4.1～2020.3.31	24
29看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2018.10.1～2019.9.30	12
30看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2019.10.1～2020.12.31	15
31看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2021.4.1～2022.3.31	12
32看護師	京都大学医学部附属病院	市立福知山市民病院	2021.9.1～2022.2.28	6
33看護師	市立福知山市民病院	京都大学医学部附属病院	2023.4.1～2024.3.31	12
舞鶴医療センター				
34看護師	京都大学医学部附属病院	舞鶴医療センター	2018.4.1～2019.3.31	12
35看護師	舞鶴医療センター	京大病院 NICU	2018.4.1～2019.3.31	12

施設名	在籍施設	出向先施設	出向期間	月数 (ヶ月)
-----	------	-------	------	------------

国保京丹波町病院

36	看護師	京都大学医学部附属病院	京丹波町病院	2018.4.1～2019.3.31	12
37	看護師	京丹波町病院	京都大学医学部附属病院	2018.4.1～2018.6.30	3
38	看護師	京丹波町病院	京都大学医学部附属病院	2018.7.1～2019.3.31	9
39	看護師	京都大学医学部附属病院	京丹波町病院	2020.4.1～2021.3.31	12
40	看護師	京丹波町病院	京都大学医学部附属病院	2020.4.1～2020.9.30	6

* あそかビハーラ病院

41	看護師	京都大学医学部附属病院	あそかビハーラ病院	2015.4.1～2016.6.30	15
42	看護師	京都大学医学部附属病院	あそかビハーラ病院	2016.4.1～2018.3.31	24
43	看護師	京都大学医学部附属病院	あそかビハーラ病院	2017.4.1～2017.12.31	9
44	看護師	あそかビハーラ病院	京都大学医学部附属病院	2017.4.1～2018.3.31	12
45	看護師	京都大学医学部附属病院	あそかビハーラ病院	2019.4.1～2020.3.31	12

* 結ノ歩訪問看護ステーション

46	看護師	京都大学医学部附属病院	結ノ歩訪問看護ステーション	2016.7.1～2017.6.30	12
----	-----	-------------	---------------	--------------------	----

* がくさい病院

47	看護師	京都大学医学部附属病院	がくさい病院	2017.7.1～2017.9.30	3
----	-----	-------------	--------	--------------------	---

* 訪問看護ステーション碧い音

48	看護師（二施設 目）	京都大学医学部附属病院	訪問看護ステーション碧い音	2017.7.1～2018.6.30	12
49	看護師	訪問看護ステーション碧い音	京都大学医学部附属病院	2018.1.1～2018.1.31	1
50	看護師	訪問看護ステーション碧い音	京都大学医学部附属病院	2018.2.1～2018.3.31	2
51	看護師	訪問看護ステーション碧い音	京都大学医学部附属病院	2018.4.1～2018.6.30	3

* 日本バプテスト病院

52	看護師	京都大学医学部附属病院	日本バプテスト病院	2018.4.1～2019.6.30	15
53	看護師	京都大学医学部附属病院	日本バプテスト病院	2022.7.1～2023.6.30	12
54	助産師	京都大学医学部附属病院	日本バプテスト病院	2023.9.1～2024.11.30	15（予定）

* 渡辺緩和ケア・在宅クリニック

55	看護師	京都大学医学部附属病院	渡辺緩和ケア・在宅クリニック	2019.4.1～2021.3.31	24
56	看護師	京都大学医学部附属病院	渡辺緩和ケア・在宅クリニック	2022.11.1～2023.2.28	4

* 京都田辺中央病院

57	助産師	京都大学医学部附属病院	京都田辺中央病院	2021.10.1～2022.3.31	6
----	-----	-------------	----------	---------------------	---

* 学研都市病院

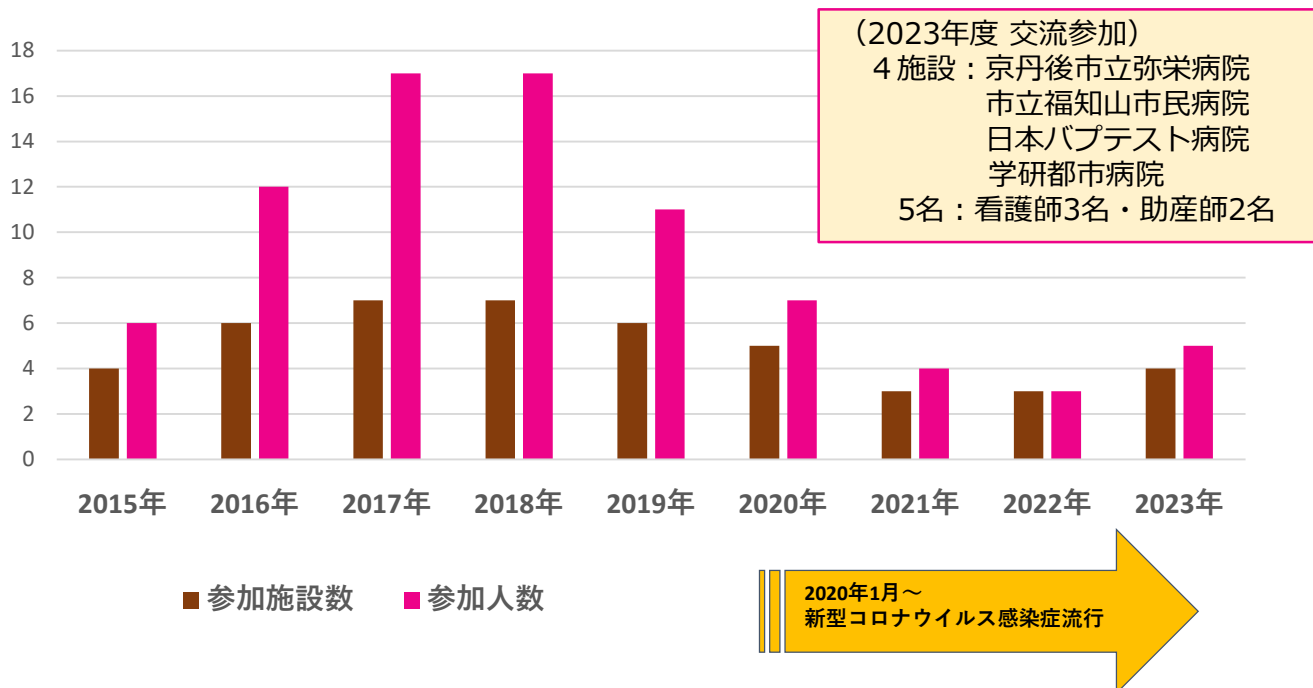
58	看護師	学研都市病院	京都大学医学部附属病院	2024.1.1～2024.3.31	3
----	-----	--------	-------------	--------------------	---

* 京都府基金対象外施設

交流実績

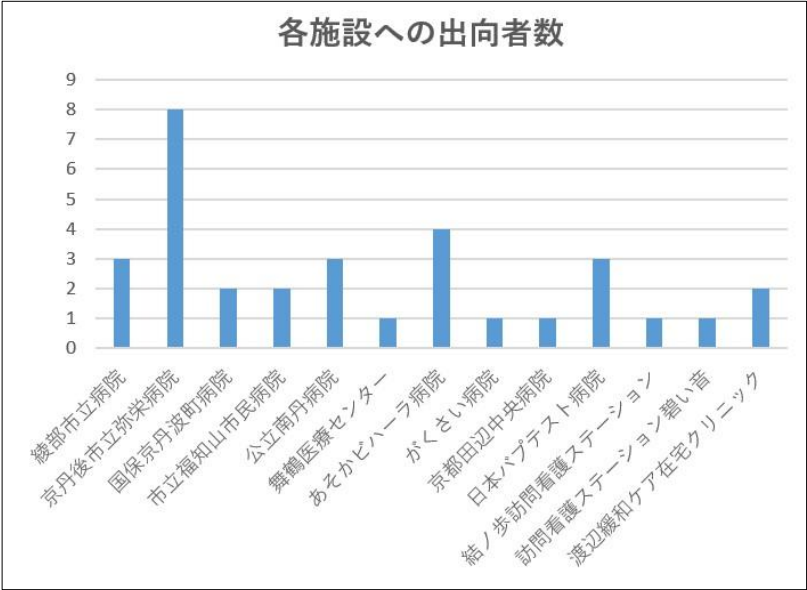
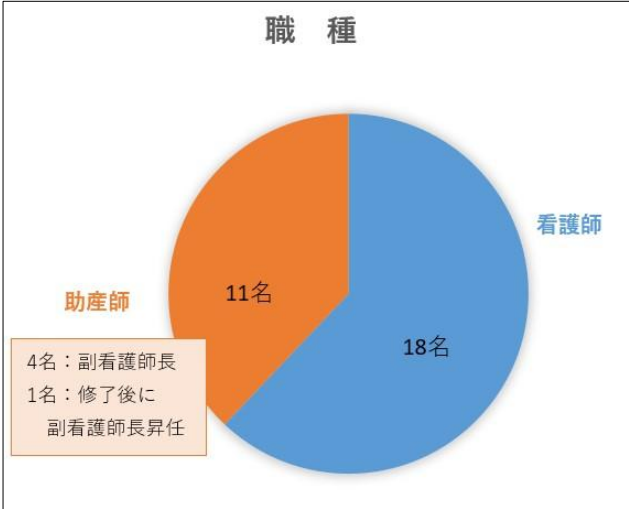
2015年7月の看護職キャリアパス支援センター開設から、今年度で9年目を迎えました。2020年以降は新型コロナウイルス感染症流行により、人材交流を実施しづらい状況にありましたが、複数の関連医療施設のご協力により、途切れることなく人材交流を継続することができ、今年度は当院と4医療施設間において、5名の人材交流を実施しました。

【人材交流実績（2015～2023年度）】

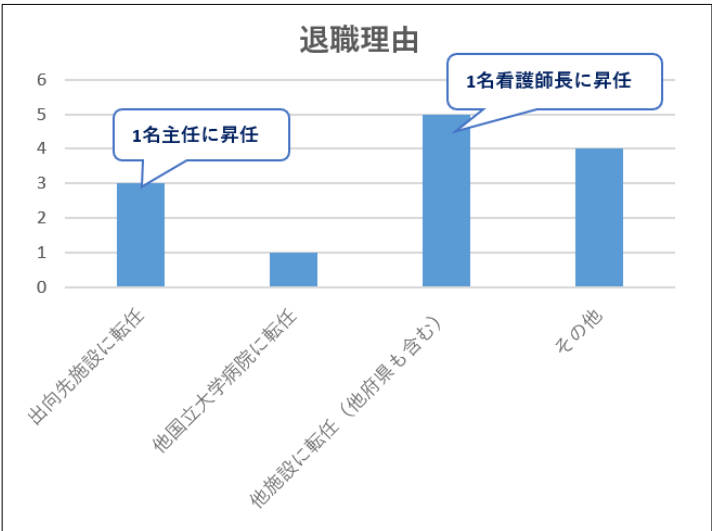
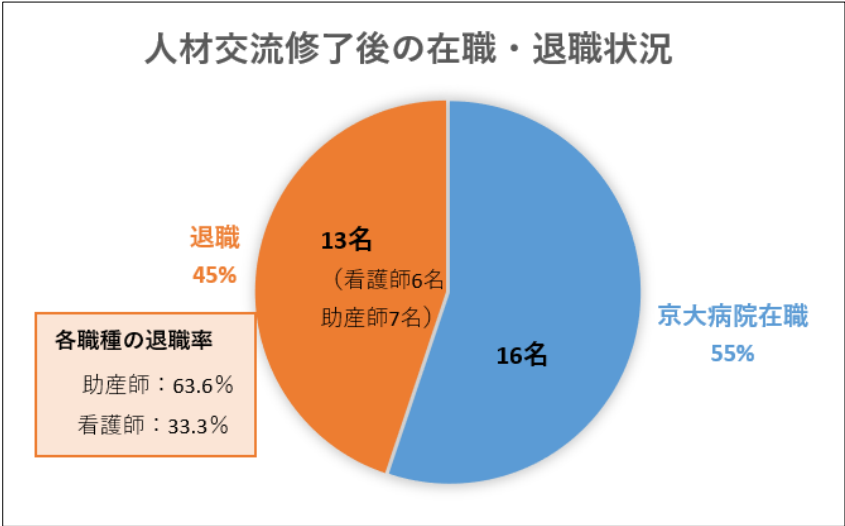


人材交流の様子

2015年度～2023年度 京大病院から他施設への出向者の状況



出向修了後の状況

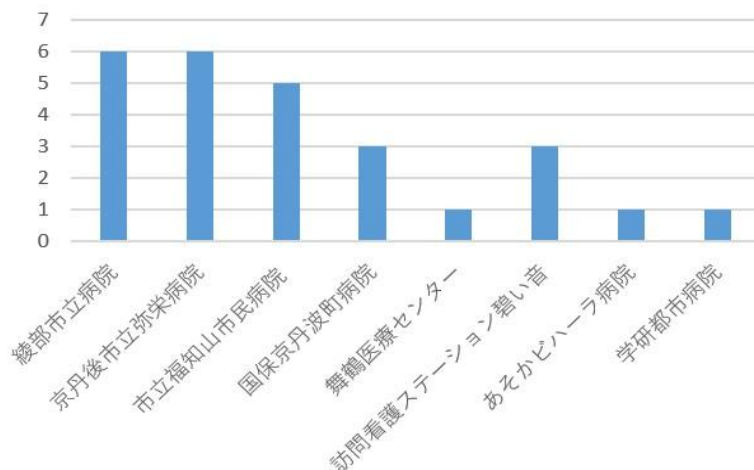


その他：他府県に引っ越し
クリニックに転任（管理者に昇任）
JICA参加

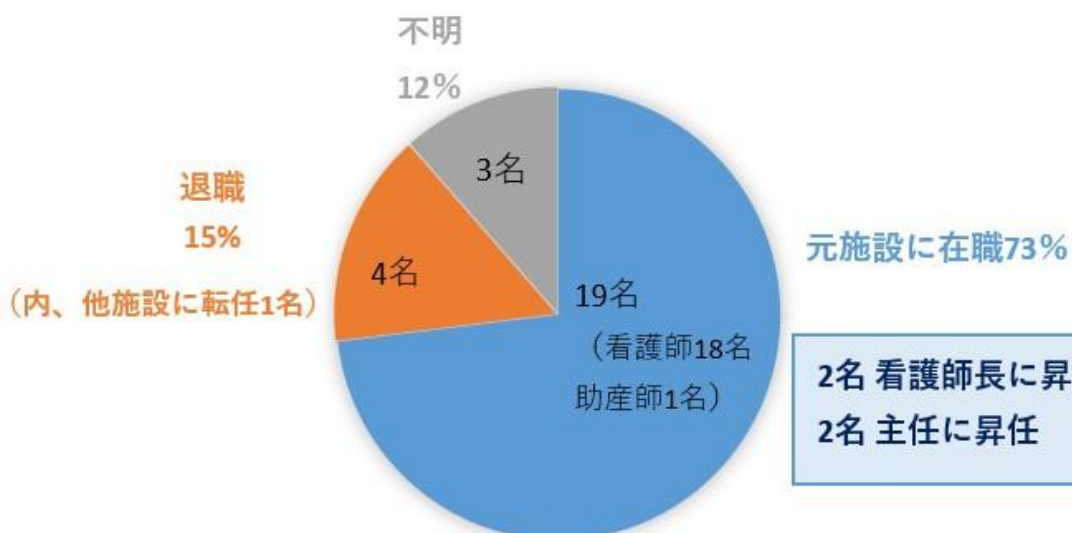
2015年度～2023年度 他施設から京大病院への出向者の状況



各施設からの出向者数



出向修了後の状況



4. 2023年度の人材交流

飯塚 愛莉（2007年入職） 助産師

京都大学医学部附属病院

⇒交流先：京丹後市立弥栄病院



より幅広い知識や技術を学ぶために

院内助産ができたことにより、フリースタイル分娩など助産師が主体となってケアできるお産にも携わる機会もあり、今まで分娩台のお産しか経験のない私にとっては新鮮であると感じる反面、自分の技術の足りなさを目の当たりにする機会となりました。もっと自信を持って分娩介助に取り組めるようになりたいと思い、出向制度を利用しようと決意しました。また、京丹後市立弥栄病院では、週に1回、助産師外来の枠があり、助産師が妊婦健診を行なっています。今後、自施設の助産師外来の活動をより活発化していくために、胎児エコー技術の習得や助産師外来の運用についても学びたいと思いました。

一つ一つの経験を活かしていけるように

京丹後市立弥栄病院では、分娩入院時の診察を助産師が行って入院の判断をし、産婦さんにじっくりと関わることができます。分娩進行が遷延している場合には、何が原因でどんなケアをするべきなのか、内診所見や腹部の触診、産婦さんの表情などをしっかりと観察し、アセスメントすることをより意識するようになりました。時には、先輩スタッフに相談し、一緒にケアに入ってもらうこともありました。また、豊での分娩介助もすることができ、助産師として、また一つ貴重な経験が増えと思っています。このような経験を活かし、自施設で後輩の指導や育成にも力を入れていきたいと思っています。

居合 あずさ（2019年入職） 看護師

市立福知山市民病院

⇒交流先：京都大学医学部附属病院



異なる環境で新しい学びを

私は入職してから消化器内科と総合内科の混合病棟で勤務しており、癌看護に興味がありました。5年目で市民病院から大学病院へ出向することに対して、自分がやっていけるのかという不安は大きかったですが、学びたい分野の部署へ出向させていただけること、また上司の後押しもあり、今回京大病院への出向を決めました。自施設でも化学療法を受ける患者と関わってきましたが、より最先端な治療が行われている京大病院で、より専門的な看護について学び、自施設にその学びを持ち帰りたいと思っています。

学んだことを勤務場所が変わっても活かせるように

出向当初はとても緊張しており、自施設とのシステムの違いもあり、慣れるまで戸惑いもありましたが、部署のスタッフ皆に優しく温かく迎えていただき、分からないことは何でも尋ねられる環境で安心して勤務することができました。抗癌剤投与の際の症状観察や血管漏出予防対策の徹底、多職種との協働、関わるスタッフへ思いやりを持って接することなど、出向していなければ得られなかった学びや気づきを得ることができ、自施設に戻ってから自分が継続して実施できることも多いため、できることから実践していこうと思います。私にとっては、看護師としても人としても成長できた大切な1年になりました。出向中に学んだことを忘れず、このような機会をくださった方々に感謝しながら、今後も患者中心の看護を考え、そして深めながら実践していきたいです。

高島 晶子 (2019年入職) 助産師

京都大学医学部附属病院

⇒交流先：日本バプテスト病院



幅広い看護の経験を通し、豊かな助産ケアの実践を目指して

2019年に京都大学医学部附属病院に入職し、産科病棟へ配属となりました。約5年間はハイリスク妊産婦と関わる中で、多くの看護ケアや助産ケアを学ぶ事が出来ました。しかし、ローリスクの妊娠・分娩管理や経過に関わる経験が少なく、正常分娩管理や、合併症に関する治療についての理解をより深めることで、より良い助産ケアが出来るのではないかと考えるようになりました。

日本バプテスト病院では正常分娩が多く、無痛分娩も積極的に行われており、ハイリスク妊産婦の対応もされています。また、混合病棟でもあり、小児科・婦人科・内科の治療過程や看護の実践も学ぶ事ができます。これらの幅広い看護の経験を通して豊かな助産ケアに繋がっていきたいと考えています。

看護をより深く学ぶ事で、助産ケアの視野が広がった

小児科・婦人科・内科の様々な患者の治療過程での関わりを通して、幅広い看護を勉強させていただいています。小児の疾患や成長過程を考慮した声掛けや看護、児に付き添うご両親への家族看護について考えさせられることが多いです。また、婦人科疾患に対する手術や術後管理、内科疾患の治療や看護を経験する事で、幅広い看護の視点を持てるようになりました。現在はその視点を以って分娩介助に関わる事が出来ており、より良い助産ケアに繋がっていると感じています。今後は自施設で学んできた事を日本バプテスト病院に伝えていくことも大切な目標の一つとなりました。一日一日を大切に、これからも頑張っていきたいと思っています。

廣岡 千華 (2016年入職) 看護師

学研都市病院

⇒交流先：京都大学医学部附属病院



高度急性期病院ICUにおける看護を経験し、自身と自施設の看護の質向上を目指して

学研都市病院急性期病棟にて看護師経験8年目となり、最近では急変対応能力の向上などに力を入れてきましたが、自身の今後の目標や見通しがはっきりしていないこと、日常の看護業務がルーチン化していることへの違和感を抱く中で、当人事交流についての情報提供がありました。これまでにない新たな経験を通して改めて自己と向き合うことで、今後の看護師人生における目標を再設定するよい機会であると考え、参加を志願しました。京大病院への出向は、高度急性期病院とケアミックス病院との役割の違い、患者・看護師の倫理観、看護師の役割とは何かを考える貴重な時間となりました。また、知識や技術の向上には、まず基本を押さえることが重要であると再確認し、自己の成長にもつながりました。

多職種が相互に尊重し合い、チームとして同じ目的・目標に向かって関わる

京大病院ICUへの出向にて一番印象深かったのは、急変リスクの高い重症患者やその家族を対象に、多職種が同じ目的や目標に向かって、責任とプライドを持ちながらチームとして日々関わり、また、ユマニチュードを用いて患者に寄り添い、不安・恐怖を抱いている患者に対し、笑顔と生きる原動力を引き出すような関わりをされていたことです。

看護とは、その実施者や場所に限らず、高い水準で偏りなく提供されるものであり、看護師として、患者の意志に伴走し思いに寄り添う介入が出来るように、今後も自身の看護観を磨き続け、一人でも多くの患者に今回の学びを還元していきたいです。

5. 活動報告

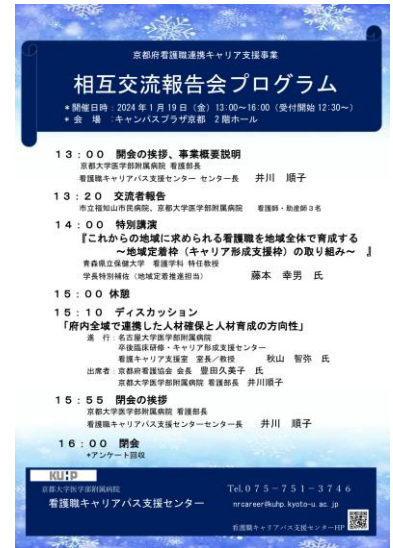
1) 相互交流報告会

開催日時：2024年1月19日（金） 13:00-16:00

会 場：キャンパスプラザ京都 2階ホール

参加人数：37名

本事業では、毎年度末に1年の活動を振り返るとともに、次年度の参加施設の拡大や、出向経験者が得た学びの共有などを目的に「相互交流報告会」を開催しています。コロナ禍の影響で2020年より3年間オンラインでの実施となっていました。今年度は4年ぶりに対面開催となりました。会場の「キャンパスプラザ京都」にて一堂に介し、旧交を温めるとともに活発な情報交換も行われ、有意義な時間となりました。



【開会の挨拶と事業概要説明】

京都大学医学部附属病院
看護職キャリアパス支援センター長
井川 順子



助産師・看護師の人的成長とキャリアアップ実現に向けて

2023年度の相互交流報告会は、井川順子センター長による開会の挨拶からスタートしました。年始に発生した能登半島地震、日本航空機と海上保安庁機の衝突事故という悲しい出来事に心を痛め、お見舞い申しあげるとともに、その中で4年ぶりの対面開催を無事に迎えることができた喜びと、活動にご支援・ご協力いただいている多くの医療機関や関係者に感謝の意を述べました。

開会の挨拶に続き、井川センター長から当事業の概要について説明がありました。事業の背景・目的や人事交流の状況を紹介するなかで、事業を推進することによって看護サービスの質の向上と継続看護を確実に遂行できる連携力を鍛えることが、中堅看護師のキャリアアップに繋がっていることに言及し、次のプログラムの「交流者報告」への期待感を高めました。



【交流者報告】



今年度、本事業に参加の3名（助産師2名、看護師1名）が、出向動機や出向先での学び、自施設に戻ってからの今後の活動や目標について、リレー形式でプレゼンテーションを行いました。三人三様に新たな気づきやスキルを獲得し、「学んだことを後輩の指導に繋げると同時に、自身の更なるスキル向上を目指して助産師外来に携わっていきたい」「看護師としてはもちろん、人として学ぶことの多かった一年。患者中心の看護やスタッフとの連携を、自施設に戻ってから自分が行動で示したい」「地域に根ざした混合病棟で幅広い看護を経験中。引き続きより多くのことを学ぶと同時に、京大病院での経験を出向先で活かせるよう頑張りたい」と、それぞれの出向先での経験からの学びや今後の展望について報告しました。また、3名の出向に関連する施設の管理者から、それぞれの素晴らしい学びと成長に対する喜びとともに、10年先20年先の医療を支えるような人材育成への使命感と期待感が伝わるお言葉をいただきました。

【特別講演】

『これからの地域に求められる看護職を地域全体で育成する ～地域定着枠（キャリア形成支援枠）の取り組み～』

青森県立保健大学 看護学科特任教授
学長特別補佐（地域定着推進担当）
藤本 幸男



●高齡化が進む青森県の取り組み『地域定着枠（キャリア形成支援枠）』とは

地域定着枠（キャリア形成支援枠）とは、高齡化が進む青森県における地域医療の課題を見据え、青森県立保健大学と地域の病院が連携・協力・支援し、これからの地域に求められる看護職の育成を目的として、2020年度の入試から設置された学校推薦型選抜（看護学科）です。

藤本教授は、青森県における地域医療の課題である地域全体で支える地域包括ケアを推進するためには、地域全体の医療を理解し、総合力・実践力を有し、地域の関係機関との連携に強い看護職の育成が必要と考え、連携する病院等とともに「キャリアサポートモデルプログラム」を作成されています。講演は、その取り組みの概要についての説明からスタートしました。

●看護学科における青森県内出身者の県外流出の原因を探り、県内におけるキャリア形成支援体制の構築へ

地域定着枠（キャリア形成支援枠）の構築に関連する要因として、二つ挙げられます。

一つ目の要因は青森県立保健大学看護学科の県内就職率、中でも県内出身者の県内就職率が低迷していることです。後日実施された学生アンケートから、就職先を決める基準として、「待遇」よりも「キャリアアップ支援体制の充実」を重要視していることも判明しました。二つ目の要因は、青森県が抱える社会的背景です。全国と比べて、人口減少・少子高齡化が速いスピードで進んでいること、地域包括ケアの推進が地域全体で求められているという現状です。

こうした要因を踏まえ、地域包括ケアの推進に必要な連携能力等を有する看護職を育成するために、青森県内にて学生のキャリア形成支援体制の構築が必要だと考え、2017年より「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」の取り組みが始まりました。そして、①関係機関との調整（青森県の医師会・看護協会・健康福祉部）、②地域との協議・調整（中核病院・医療法人等）、③地域への支援（研究会開催）、④高校生等への周知、⑤地域定着枠学生への支援等の取り組みにより、2021年度（2020年度実施）より「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」の入試（青森県内者5名募集）が開始されました。

また、西北五圏域グループワークを行い、地域完結型医療のモデル地域として、地域で必要な看護師を地域で話し合い・連携して育成する「西北五圏域キャリアサポートモデルプログラム」についての紹介もありました。

●「地元愛」と「やる気」のある学生を選抜し、入学前～就職後まで継続的にサポート

現在、地域定着枠（キャリア形成支援枠）の入試により選抜された1期生から3期生までの「地元愛」と「やる気」のある学生16名が在籍しています。

そして現在では、「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」の取り組みに関する連携協力協定書を締結した青森県全域の6医療圏での5中核病院・5医療法人等と連携・協力しながら支援しています。具体的には、地域定着枠の学生への支援は入学前から始まり、専属のキャリアサポートコーディネーターを中心として、在学中は定期的な個人面談やミーティング、中核病院等の看護管理者との意見交換、病院見学・インターンシップ、就職を希望する病院との調整等を行います。また、就職した後も定期的にミーティングや面談・相談など、継続的かつ手厚く支援していきます。

地域定着枠から輩出された人材は、2025年に1期生が就職・ローテーション勤務を開始し、2035年には就業者が55名に増加する見込みであり、青森県内で活躍する看護職の定着、地域包括ケアを推進する看護職の育成と配置など、看護の質の向上や地域医療への貢献が期待されます。

今後の課題・展望として、志願者の安定的確保、支援体制の強化、地域の病院等との連携・協力関係の強化・拡充、相互交流・人事交流の推進を挙げ、高齡化が加速する地域社会において、地域包括ケアの更なる推進への期待と看護職育成への熱意が感じられる講演となりました。

【ディスカッション】 「府内全域で連携した人材確保と人材育成の方向性」

進 行：秋山 智弥 名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
看護キャリア支援室 室長／教授
出席者：橋元 春美 京都府看護協会 専務理事
井川 順子 京都大学医学部附属病院 看護部長
看護職キャリアパス支援センター センター長



看護職キャリアパス支援センター初代センター長である秋山教授による進行のもと、京都府看護協会・橋元春美専務理事、井川順子センター長を中心にディスカッションが行われました。

最初に、秋山教授より京都府看護職連携キャリア支援事業の立ち上げの背景と経緯について説明されました。看護のプロフェッショナリズムについて、患者/家族の擁護者として“まもる”、医療/ケアの提供者として“とどける”、医療チーム/場の調整者として“つなぐ”の3つを挙げ、また、ジェネラリストには“見る力”“護る力”“育む力”が求められること、そして、医療機能や施設の垣根を越えて、複数の領域における看護の経験を通して、施設間の連携に強いジェネラリストを育成するための取り組みとして、当事業の意義について述べられました。

続いて、橋元専務理事より京都府内の看護職員と看護職養成の現状について報告がありました。近年、看護職員数が減少傾向にあり、少子化を背景に看護職養成機関への入学者数も減少していること、また、府内の退職者調査では、25～30歳代の中堅看護職の退職率が高く、京都府内の看護職として生涯にわたり活躍できる仕組みづくりについての考えと当事業への期待を述べられました。秋山教授は、人事交流後の退職者数にも言及し「退職理由や転職後のキャリアなど個々の状況を数値化していくことが課題抽出に繋がるのではないかと問いかけ、ディスカッションがスタートしました。

橋元専務理事は「退職者の中には、看護職として他職場に転職と看護職以外への転職が混在しており、サポートにおいては個々のキャリアを考えた面談が大事なのではないかと話し、井川センター長は、人事交流後の退職者の中には看護職として新たな目標を見出した者もいることに触れながら、「大切な一人を一生支えるためには、卒前からの教育が必要であることを改めて実感している。一大学だけでなく府や医療機関、看護協会など、オール京都での取り組みが不可欠である」と、今後のビジョンを掲げました。会場からも「地域偏在への対策やライフイベントにおける世代ごとの課題も、オール京都のなかで解消できるのではないかと」など、今後の取り組みを期待する多くの声が聴かれました。秋山教授は「平時から人事交流を推進し、施設間の連携に強い看護のジェネラリストの育成のためにも、この事業を継続していきたい」と締めくくりました。



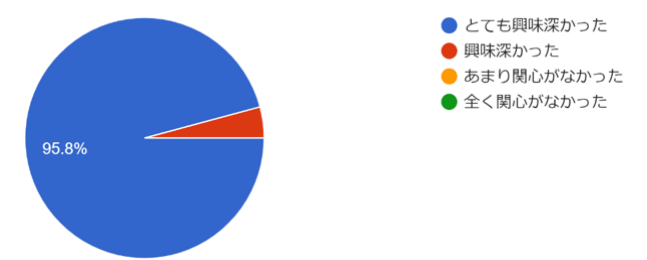
【閉会の挨拶】

京都大学医学部附属病院 看護部長
看護職キャリアパス支援センター センター長
井川 順子

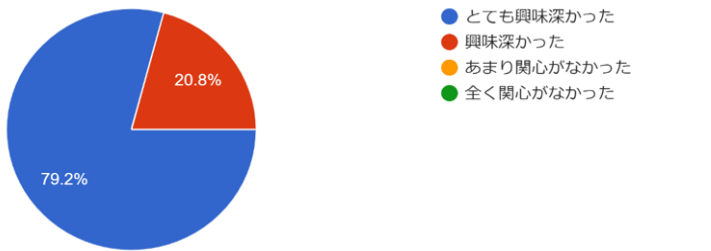
コロナ禍のもと3年という月日を経て、ようやく対面開催が実現した2023年度相互交流報告会でした。今回、特別講演やディスカッションを通して、一人の人材を大事にし、生涯を通して支援していくことが管理者の大切な役割であることを共有するとともに、それをオール京都で実現していくためのたくさんのヒントが得られた有意義な場となりました。今後の当事業の活性化と継続への期待を込め、相互交流報告会の幕を閉じました。

【2023年度相互交流報告会 参加者アンケート結果】 (参加者37名中、24名回答)

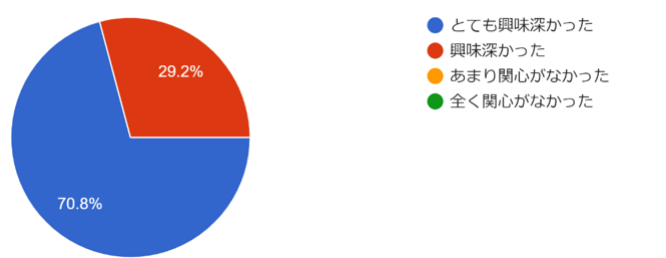
* 交流者報告はいかがでしたか？



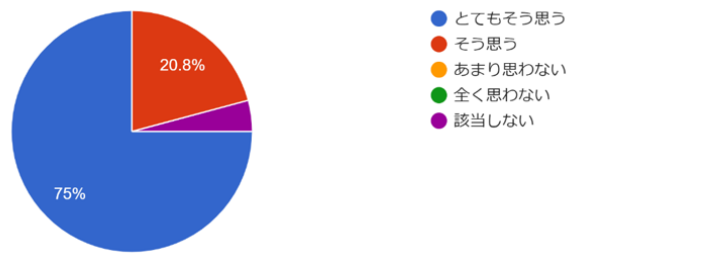
* 特別講演『これからの地域に求められる看護職を地域全体で育成する～地域定着枠（キャリア形成支援枠）の取り組み～』は、いかがでしたか？



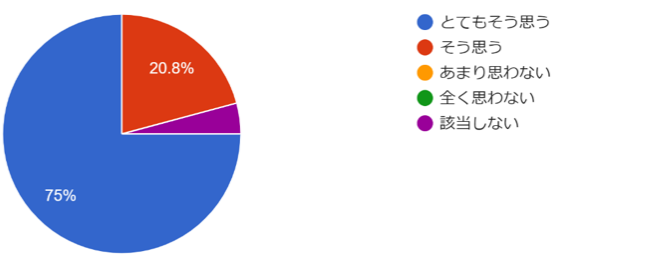
* ディスカッション「出向後の活動と交流出向への期待」はいかがでしたか？



* この人材交流プログラムは、今後、貴院の看護職のキャリア支援に役立つと思われますか？



* あなたは、この人材交流プログラムに参加したい（職員を参加させたい）と思われますか？



- (回答理由)
- 是非、同期や後輩にも参加してほしいと思います。
 - 目的に共感している。
 - 出向させるだけの人員の確保ができていないのが現状ですが、キャリア支援としては、とても良い機会だと思います。
 - 現在、希望者がある。
 - 是非とも出向させたい。
 - 目の前の業務でいっぱいになって辞めていくスタッフの、少し視野を広げることに繋がると思う。
 - モチベーションの向上に役立つと思う。
 - 他施設での実際に触れることで、自施設の良いところが見えてくる。
 - 行政職のため(該当しない理由)。

- (回答理由)
- 一つの医療施設だけでは得られない学びがあり、この学びを活かして勤務していきたいと思っています。
 - 現場、事務局の状況を共有できるため。
 - 自施設だけでは、育成が十分に行えない。スタッフの学ぶ場は、もっともっと拡大してあげたい。
 - 潜在する力を引き出す機会は、多くあればあるほどよい。
 - 出向に来ていただいた立場ですが、スタッフにとっても、とてもプラスにはたらいています。
 - 当院も2科(整形外科、回復期リハ)しかないため、施設同士で交流できると学びが深まると感じた。
 - 他施設での経験を希望する職員も多く、成長も期待できるため。
 - 他施設、地域の現状を理解することで職員の成長になること。
 - 行政職のため(該当しない理由)。

* その他、全体を通してのご意見・ご感想

- 自分の学びだけでなく、他の参加者の学びを聞くことで刺激にもなりました。今後、自分がどのように働いていくのか、改めて考えることができる良い機会になりました。
- 多くの方に尽力いただき、事業が継続されていることに感謝します。
- 毎回、気づきが多く、とても充実した時間でした。
- 参加させて頂いて、事業内容や経験者の体験話が参考になりました。近日中にこのプログラムに参加し、一人の看護師が生涯オール京都で働き続けられるしくみ作りを続けていけるようにしていきたいと思いました。
- 交流者報告の部分を(特に)多くの看護師に聴講してもらえる機会(オンデマンドなど)を設けられると、もっと広く知れ渡る機会になると考えます。

2)出向支援の取り組み

1 生活環境の整備（京都府基金充当）

- ・ 出向先での通勤や夜勤のための宿舍提供
- ・ インターネット等の通信環境の整備
- ・ 生活用品・自転車・暖房器具など必要に応じて提供



2 出向者定期報告・面談

- ・ 出向者は原則 1 回/月 帰院し、自施設の管理者に定期報告
出向先での経験を出向元で報告し情報共有することで、自身や自施設の看護を振り返り、今後の課題や目標が明確になっています。
- ・ 当センター担当者の定期面談（1回/月）
- ・ 各施設との情報共有

3 教育的支援

- ・ 2023年度 京都大学医学部附属病院 のオリエンテーション、必修研修参加
- ・ 学研ナースングサポート e-Learning受講
- ・ 院内研修参加
- ・ 学会参加
 - 日本助産学会学術集会 1名参加
 - 日本がん看護助産学会学術集会 1名参加
- ・ その他の研修参加
 - ユマニチュード実践者育成研修（2日間） 14名参加
- ・ 動画視聴教材の提供
 - 「動画で実践ユマニチュード」 IGM-Japon合同会社
- ・ 小冊子の提供
 - 「みんなでユマニチュード」 日本ユマニチュード学会 2023年 第6版

4 出向者のピアサポート

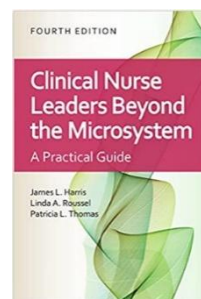
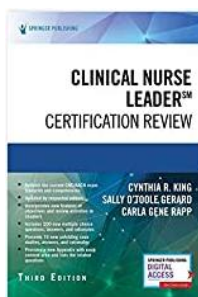
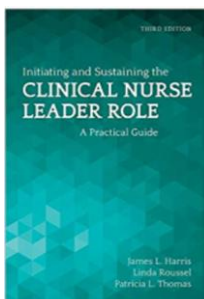
- ・ 新たな生活・職場環境に、心身共に円滑に適応できるよう支援
- ・ 出向先部署をラウンドし、スタッフとの情報交換や役立つ情報の提供など、タイムリーで具体的な支援

3)CNL（クリニカル・ナース・リーダー）育成への取り組み



- CNL（クリニカル・ナース・リーダー）指導者育成研修を修了し、認定試験受験資格条件を満たした看護師たちが、地域ごとに定期的に勉強会を行い、日本では2名のCNL指導者資格保持者が誕生しています。
- 現在では京都大学医学部健康科学科・医学部附属病院を中心に、施設を越えた自主的な取り組みとして、日本とアメリカ聖アンソニー大学とWebでつなぎ、毎月勉強会を開催しています。
- 他大学や様々な機能の医療施設からの参加があり、テキストを翻訳しながらの抄読会や米国CNLの行うシステム改善の実践例を共有し、学びを深めています。
- 日本でのCNLの資格導入はまだですが、勉強会に参加するメンバーは皆、学びの全てが看護の質管理や組織改革といった日々の実践に役立つことを実感しています。

使用テキストの1例



6. 編集後記

京都府看護職連携キャリアパス支援事業「施設間の連携に強い看護師養成プログラム」におきまして、皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

2023度は、京都府北部の丹後医療圏と京都・乙訓医療圏、そして新たに山城南医療圏から参加いただき、4施設で5名の助産師・看護師が交流・出張を経験し、それぞれの目標に向かって取り組むことができました。各施設の皆さまには、出張者をチーム医療の一員として施設全体で温かく迎えていただき、2023年度も無事本事業を終える事ができましたことに心より御礼申し上げます。

2024年度からは、本事業の主体が京大病院から京都府看護協会へと移行し、支援の対象が京都府全域の医療施設へと拡大されます。今後は、京大病院と他医療施設との人材交流を継続しながら、他医療施設間での人材交流のマッチング支援も行い、本取り組みの継続が京都府下の地域医療への貢献、ひいては日本全体の看護力向上につながることを期待しています。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2024年4月
京都大学医学部附属病院
看護職キャリアパス支援センター
一同



KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NURSING CAREER PATH SUPPORT CENTER



Committee for Nurse's Improvement
of the Regional Alliance Ability

Annual Report 2023

京都大学医学部附属病院看護職キャリアパス支援センター
地域連携力向上キャリアパス支援部会